

第5期－第3回 羽村市図書館協議会会議録

1 日 時	平成30年2月27日(火) 午後2時～4時
2 場 所	羽村市図書館 ボランティア室
3 出席者	【副会長】石川 千寿 【委員】野元 弘幸、瀬戸 隆幸、金子 真吾、 伊藤 多加志、近藤 雅美、中田 国雄
4 欠席者	【会長】塚原 博【委員】佐々木 辰寿、小山 玉恵
5 議 題	(1) 第2回羽村市図書館協議会会議録の確認について (2) 羽村市子ども読書活動推進計画実施計画の進捗について (3) 図書館システムに関する意見について (4) その他
6 傍聴者	なし
7 配布資料	① 次第 ② 羽村市子ども読書活動推進計画実施計画進捗状況一覧表 ③ 図書館システム説明資料

8 会議内容	<p>【事務局】 ただいまから第3回羽村市図書館協議会を開会いたします。先日、塚原会長の奥様からご連絡があり、会長が体調を崩されて入院されたとのことです。今日は協議会を欠席させていただきたいというお話しでした。図書館協議会の規則第3条に「会長に事故があるときは副会長がその職務を代理する」という規定があります。よって今回については副会長の石川委員に会長を代行していただきまして進行をお願いします。それでは、次第に沿いまして進めさせていただきます。では、副会長から挨拶がありましたらお願いします。</p> <p>【会長】（※副会長が会長を代理。以下、会長と表記） 不慣れなものですがお願いします。 塚原会長ですが、今回2月にボランティア養成講座の講師をされておりまして、この前の金曜日にも講座がありまして、科学絵本の有効性、どういうものを使ったら良いかという講義を受けさせていただきました。その際にはお元気そうに見えたのですが、体調を崩されたという事で心配ではありますが、協議会でも羽村の図書館でも無くてはならない柱のような存在でありますので、早く体調が治りますことをお祈りして挨拶とさせていただきます。</p> <p>【会長】 それでは続きまして第2番に移ります。第2回羽村市図書館協議会会議録の確認について、の説明を事務局をお願いします。</p> <p>【事務局】 会議録の中で誤字脱字、言っているニュアンスなど違うということなどありましたら、後日で結構ですので事務局までご連絡いただけるようお願いします。</p> <p>【会長】 会議録の確認については、お手元またメールで配信されていますので、誤字脱字などについてはそちらのメールで返信いただいて構わないという事です。事務局、いつまでですか。</p> <p>【事務局】 年度末の時期でもありますので、3月20日までにいただければと思います。塚原会長には、お元気になられましたら見ていただいて加えさせていただきます。</p> <p>【会長】 それでは、確認の訂正については、3月20日までに事務局へお願いします。</p>
--------	--

【瀬戸委員】 今分かっている部分で良いですか。16 ページの私の発言なのですけれど、文末のところが変かなと思ったのですね。「図書に関連した使い方にした方が良いかもしれません」と言ったので「思い」は要らないです。

【事務局】 直させていただきます。

【会長】 それでは続きまして、「次第 3、羽村市子ども読書活動推進計画実施計画の進捗について」、事務局から説明をお願いします。

【事務局】 こちらの計画については、昨年の 3 月に策定しまして、5 年間の計画というのはご存じだと思います。それぞれの年度毎に計画に位置づけました施策がどのくらい進んでいるかというところを図書館協議会で確認していただくという事を計画に盛り込みました。3 期計画からそのように取り扱うのだという事です。あと 1 か月で 1 年になるのですけれど、29 年度はどのように進んだかということをご確認いただきまして、この協議会でご意見をいただければと思っています。単年度で終わるという計画ではなく、5 年後に完了というものがあります。期間途中から着手するものもありますが、この 11 か月間で進んだものについては進捗状況一覧表に記しています。新規事業とレベルアップ事業について説明をさせていただきます。

まず新規事業です。ポップ作りの実施ということでは、YA コーナーのところで展示をしました。YA ボランティア講座の中でポップを作っていたいてそれを展示したということです。将来的には YA ボランティアだけでなく、ポップの作成を広めながら、学校の協力もいただきながら、学校にも良いポップがありますので、それを図書館で展示すると生徒のモチベーションが上がったり話題性があがったりするのかなと思いますので、そのような形で進めていきたいと考えています。絵本関連講座の実施ですが、今年度は塚原会長に講師をお願いし子どもと楽しむ科学絵本の紹介のような講座を実施したのですが、3 回目の講座が明日で、中止になってしまったのですが、その講座を位置づけて考えました。これについては 5 年間、いろいろな形で絵本に関連する講座を考えながら、絵本づくりもありますけどそういう講座を進めながら、絵本への関心を高めていこうと計画しているものです。

オリンピック・パラリンピックについては、関連資料の収集と多文化理解ですね。その資料を紹介していくのと言うことで計画しています。2020 年に向けて書籍が増えていくというところを考えていますが、資料の収集は計画 20 冊のところ 34 冊買えることができたということです。このオリンピック・パラリンピック関連資料については今後増えると思われますので、その

中で内容を見ながら良い本を選択して収集していこうと思っています。多文化についても同じですが、学校の調べもの学習も視野に入れて収集整備をしていきたいと思っています。関連資料の紹介です、まだ展示には至っていません。区部と26市公立図書館の連絡会があり、そこで来年度、それぞれの館でオリンピック・パラリンピック関連資料の展示をしていこうと、そのタイトルを統一していこうと決まりました。

ですので、来年度に展示を行う予定となっています。次に幼児向けの本を保健センターで見られるようにということです、こちらについては保健センターと調整を図りながら図書館で使われていた絵本をリサイクルとして60冊持って行っています。

児童館での読書コーナーの図書充実ですが、30冊の計画に対して児童館での購入は21冊との報告がされています。児童館とか学童クラブについても、本のリサイクルの時に事前にお渡しするという形をとっていますので、その分が増えるかと考えています。

まちづくり出前講座の職員派遣です。これは市の行政サービスを団体やサークルに対して出張して説明するという制度です。その中に図書館のメニューも今年度増やしたのですが、結果的に希望が寄せられなかったということで、実績としては0でした。こちらはとりまとめしている生涯学習総務課のほうでもリーフレットを作りPRしているのですけれど、図書館としても機会があれば周知を計っていきたいと思っています。読書手帳の活用については、読書手帳を配布していることと、読書手帳表彰を含めて浸透を図っているところで、小中学校の1年生全員に配付をしています。実績については、継続して行っているという形になっています。

本館おはなし会の実施では、毎月定期的に行って計画通りです。また、子ども読書計画ではないのですが、大人のお話会を去年から始めて、子育て世代の親かどうかは別としてお話会に対する関心も高められるかなと思っています。

団体への資料貸出については、団体の希望によるところがありますが、団体にも周知を図ったり連絡をしたりしながら行っています。数としては1015冊の貸出で少ないということにはなるのですが、継続して行っている状況です。

赤ちゃん絵本コーナーの充実については、買い換えを含めて本の整備を行っているところです。計画に対して実績はほぼ満たしています。本棚がかなりきついということがありますので、今後整理が必要だと思っています。

赤ちゃん絵本の紹介・ブックスタートについても計画通り行っています。アンケートを毎回とっているのですが、ほとんどの方から肯定的な意見をい

ただいています。子どもの数が少なくなっているということがあって、参加者は昔に比べると少なくなっているのですが、参加者にとっては有効な事業と捉えています。

小学校お話し会は年度当初に日時などの希望を聞き、職員が出向いて開催しています。学校からの希望については、ほぼ対応しています。

ヤングアダルトサービスの本について、実際の蔵書数は計画数値を超える形での実績となっています。

本館・分室図書の充実です。これもすこし計画値から上回った数値となっています。

分室のあり方については、5年間かけて検討し、方向性を示すという事になっています。現在のところ、検討中です。分室も新しい場所があるのかとか、整理、縮小、統合ができるのか、とか、拙速に決めても良いものにはなりませんので、いろいろな方向から十分に行っていきたいと思いますが、現在のところは検討段階です。

ゆとりぎの連携事業については、ママ読書があります。これは保育をしながらお母さんたちに有意義な読書の習慣を持ってもらおうというものです。ママ読書と夏休みの学習の場利用の連携の実績は計画値を超えています。ゆとりぎでは市民講座も行っていますので、今後、読書につながる市民講座を企画しながら連携していきたいと思っています。

「子ども読書の日」の取り組みの中に児童書コーナーの充実があります。こちらは先ほどと類似するのですが、第三次子ども読書計画の中で子ども向けの蔵書を増やすというものがありました。それにより29年度当初予算で児童書の購入費が2割ほど増えたということもあって、本を買って整備を進めていることがあります。図書の充実については計画値に近い形になっています。そのほか、継続事業については、後でご覧いただければと思います。

【会長】 今の説明についてご意見等あればお願いします。

【金子委員】 1ページ新規事業の図書紹介、ポップづくりの実施ということで、学校とも連携をとってと言うことで、やることはとても素晴らしいと思うのですが、手順の中で学校図書館司書と連携をとっていただいて、いつ頃が良いのか、どんな内容にしてというところで、しっかり事前の打ち合わせを確実に作っていただくようなしくみを、意見交換の場も、どんな形が良いのかということで、くれぐれもトップダウンで作品を出してくれって学校に流れてくることの無いように、ぜひ配慮してほしい。そういう手順を踏めばどの学校も何らかの事をやっていると思いますので、うまくいくかなと思

うのですが、突然出されても難しいところがあります。ご配慮いただきたいと思います。二つ目はオリンピック・パラリンピック関連資料の収集の図書の紹介が0ということなのですが、本校にもブラインドサッカーの競技で世界大会にも出ている3年生の生徒がいて、将来パラリンピック競技になるかという予想もあるので、ぜひ地元の方で市役所職員には元オリンピック選手もいるので、あっという間に2年なんてきてしまいますから、できることからやっていただければ良いと思います。学校でもオリンピックの方だとか紹介いただいて講演会を開くなどしていますので、機運を高めるという意味では遅くは無いと思いますのでぜひよろしくお願いいたします。

【事務局】 1点目のポップの関係は、金子委員のおっしゃるように、トップダウンですするという考えはありません。まず、どういう実態があるのかというところから初めていきたいと思っています。実際の図書館と司書の先生方との連携もようやく連携を図る機会ができたかなというところです。学校の図書館システムが小学校全てで整備され、今後中学校が整備されて、全部の学校がネットワーク化される、それと同時に公立図書館と学校図書館と連携をすすめていくという構想があります。そのなかで実際にどういう形なら実施できるか、学校での情報も聞きながら、良い方法で進めていければと思っています。すぐに、思いついたから来年度やりましょうということではないと考えています。

【中田委員】 本館の児童図書の充実というところで、29年度の計画冊数がありますが、毎年このくらいの本をとということですか。今ある上に新規で増やすということですか。

【事務局】 蔵書数です。

【中田委員】 そうすると、年度計画としては、どんどん増やしていくということで、新規購入は関係なくて。

【事務局】 新規も入っています。ただ、ずっと増えれば良いという訳ではなく、その中から古い本とか傷んだ本とかを除籍します。置き場所もなくなってしまいますので。この項目は整備ですので、新しく買う計画については、次の項目の2050冊整備というところに記述しています。

【中田委員】 これ、3冊くらい同じ本を購入する場合がありますよね。実

数ですよ。

【事務局】 そうです。

【中田委員】 あと、児童館に本を充実とありますが、児童館はいくつかありますね、同じ種類の物を3館に渡すということですか。

【事務局】 実際のところは冊数だと聞いていますが、その内容までは分かっていません。

【中田委員】 参考までにお聞きしました。わかりました。

【近藤委員】 赤ちゃん絵本の紹介、6番の項目なのですが、うちはかなり本を読むので表彰の後に他の人から声をかけられて、読むきっかけとなったところを聞かれるのです。確かに保健センターで絵本を配付されたときに皆さん喜んでいて、その時、子どもが絵本に興味を持たなかったというので、読む習慣がつかなかったという事を何人からも聞かされました。確かに子どもが読むには早い時期ではないですか。絵本が1冊手元に来たことは喜んでいるのだけれど、読むきっかけにならなかったと言われたのですね。その絵本をもらった時に興味が無くても、読み続けていくこととか、興味がある本を借りてきて読み続けることで本に対して興味を持つことは大事だと思うのですが、そういうところのアナウンスがその時は無かったので、この子は本に興味がないのだと思ったお母さんが多かったと思うのです。

【事務局】 ただ本をあてがうだけでは無く、うちの司書が行ってお母さんたちに基本的なことの説明をしています。興味を持たなかった子にはこうという一般論になりますが、強調しても良いかもしれませんね。

【近藤委員】 その辺がもっと伝わると良いかと思います。

【事務局】 絵本の配付は3,4か月時健診のときで、そのあとBCG予防接種の時に図書館の司書が行って、配布と説明が別の時期になっています。初めは一緒だったのですが会場の都合で参加者が少ない形で、何とかブックスタートの説明のほうにも人を集めたいということで日付を分けてやっているのです、そのあたりの連携をとったほうが良いのかと。

【近藤委員】　そうですね、あと、行っている時って、母親も手一杯なんです。聞いているようで聞こえていないというか、でも家に帰ってみて、読み続ければ良いのだからって思えるようなものがあると、また意識が違ってくると思うのです。子どもが聞いていないのに絵本を読むって難しいのですけれど、その辺がもうちょっと母親に伝わるとチャンスがいっぱいあるかなって思います。もう一点なのですが、ママ読書の日数 90 日は年間ですか。毎回同じ人というのはあると思いますが。これ、今は館内で時間を過ごすということですよ。何回か調査に回ってこられた事があって。

【事務局】　利用者の方の中に、買い物の利用とかの方がいて。

【近藤委員】　私も、読んでいても「読んでいますか」とチェックが入るのがいやでやめてしまったのですが、座る場所も年配の方が多くて、尋ねたらゆとりぎでも良いですと言われたので、ゆとりぎに行ったこともあったのですが。今もチェックは入るのですか。

【事務局】　毎回ではないです。一時、割合多くの方の利用が買い物目的になって、読書利用ではなくなったということがあったので、それは本来目的ではないということと、読書利用のための認識をもってもらおうと声かけをしたと聞いています。

【会長】　普通に利用される方にとっては何でそんなチェックをされなければいけないのだと思われる事だと思います。ただ、実際に別の利用をしているケースを見てしまったということが、そういうことになったと思うのですね。今はそれは解消されたのではないのでしょうか。今、ママ読書自体も利用者が減っているようなので。

【近藤委員】　さくらんぼさんに預けて 2 時間ゆっくりできるというのはすごく貴重だったので、続けていただけると助かると思っています。

【会長】　図書館で小さいお子さんを預けてそれで図書館での時間を過ごすことができるというのは公立図書館としてはあまり例の無いものだと思います。やはり、利用者数も増えたら良いでしょうし、そうすればお母さんが終わったあと、また別にこども図書室にきて本を借りてということもあると思いますので、両方の利用が増えるという考えから充実できたら良いと思います。ほかにはいかがでしょうか。

	<p>私からも一つ伺います。児童書コーナーの充実で 1959 冊を新規整備されたという事で、赤ちゃん絵本の充実ということもあって、2309 冊増えたと言うことで、要は児童書というのは絵本も含めた 4300 冊程度が分室と本館の子どものコーナーに増えているというふうに捉えてよいのでしょうか。</p> <p>【事務局】 児童書は絵本を除いた数です。</p> <p>【会長】 この 1959 冊というのは、あくまで児童書ということですね。</p> <p>【事務局】 そうです。絵本を除いた形になります。</p> <p>【会長】 逆に絵本コーナーの 2309 冊というのが純粋な絵本ということですね。わかりました。</p> <p>【事務局】 ですので、絵本がかなりぎっちゃんになりそうなので、ちょっと買い換えなどを含めて、担当者には新しいものをいれたら古いものを地下に下ろすとか、きれいなものに替えていくなどの指示をしています。</p> <p>【会長】 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。では、子ども読書活動推進計画の進捗について、事務局からの説明と質問は終了します。続きまして、次第の 4、図書館システムに関する意見について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>【事務局】 図書館にはご存じのとおり電算システムが入っておりまして貸出返却、また図書の検索など行っています。目的のところにるように、現システムが平成 30 年 10 月末で満了を迎えます。現在クラウドシステムと言って、図書館の中にデータを置いているのではなく、システム会社のデータセンターのほうに情報を置きましてそこと通信しながら行っています。現在安定して稼働してまして、速度的にも問題なく、今のシステムはもともと検索が早いという話もありまして、ストレスなく出来ている状態です。平成 32 年 1 月にウィンドウズ 7 のサポート延長が終了する関係で、セキュリティのアップデートが無くなるということで安心して利用を継続するためには、機器を入れ換えなければいけないというのが大前提となっています。それに伴って、現在図書館ではバーコードを使って貸出などと資料の管理を行っています。また、盗難防止装置として磁気テープを本の中に貼ってまして、そちらを感知して鳴るしくみがあります。ただ、こちらはかなり老朽化</p>
--	--

してしまして、反応にムラがあったりが時々発生しています。また、磁気のかけ方も人によっては磁気を書き換えが行われずにお渡ししてしまう場合があります、ご迷惑をおかけするという事が発生しています。近年、近隣の図書館でもＩＣタグを導入して蔵書管理をしている図書館が増えています。新規導入のところがＩＣを入れているということです。ＩＣを導入すると、今１冊ずつ読んで貸し出ししているところをＩＣだと一度に行う事が出来ます。カウンターに置いた時点で貸出のオンオフができるので、盗難防止の処理も同時に出来てしまうと言うことで、今よりかなり貸出返却の作業が迅速になると言うことと、人間が１冊ずつやるとミスがあるとかというのも解消できます。蔵書点検についても、現在の半分かりの時間でできるのではないかなというような試算をしています。また、別の機会を導入しなければいけないのですが、青梅市でやっている自動貸出機も導入していきたいと考えています。自動貸出機については若い方で借りたい本をカウンターに通したくないとか、病気のこととかをカウンターの人に見られたくない場合などのプライバシー保護には有効です。予約棚の導入ですが、これはリクエストした本を専用の棚と機械があって、予約した方が自分のカードを読み込ませると本の位置を案内して自動貸出機で借りられるというものです。囲まれて勝手に持ち出されないような形になっているのですが、そういう形ですぐに貸し出すことができる。ただ、自動貸出機や予約棚となると相当な費用がかかりますので、こちらは財政サイドと交渉という形になると思います。そういったことでプライバシーの保護と迅速化でかなり市民サービスが向上するのではないかと考えています。羽村でも将来的に段階的にＩＣタグの導入を実施していきたいと考えています。効果としては、先ほどのカウンターでの待ち時間がかなり短縮されるということと、その時間をフロアワークに充てるとかの市民サービスのソフト面で時間を有効に使う事が出来ると考えています。蔵書点検の短縮はいろいろなところで、近隣では早いところでは３日で開けるというところも出ていますので、そこまでいなくても現在の１０日の半分にできれば市民の方の要望にもマッチするのかなと考えましてシステム更新の際にＩＣタグを入れたいと、現在考えています。

【事務局】 今、説明したものには二つあって、一つは絶対にやらなくてはいけないのがウィンドウズ７のサポートが終わるので、新しいＯＳのパソコンに入れ換える。現在検索機など全てウィンドウズ７を使っています。そこは必ず必要だと。もう一つはＩＣタグです。こちらは今のバーコードのままでも行けるのですが、図書館サイドとしてはなるべくＩＣ化をしたいなと思っています。利便性の向上ですとか管理の安定化とか、そういうところ

に結びつくからという事です。ですが、1冊あたり安くて自分たちでタグを貼って30円らしいですが、図書館の蔵書数にかけますと40万冊あります。そのように最初のコストはかかります。ただ、一回やってしまえばそれ以降のランニングコストは安くなる。近隣館でも導入し始めています。このことについて、協議会からご意見をいただければと思っています。図書館の中で必要という考えがまとまらないと、なかなか実現していかないものだと思います。これについては、今日説明をさせていただいたのですけれど、協議会として将来的にご意見をいただきたいと思っています。

【会長】 将来的にはという話ですが、今の話をきいて、ご発言をお願いします。

【野元委員】 今の説明は、要するに図書館協議会として、何か電算化についてい意見をもとめてと言うことですか。

【事務局】 そうです。今この場でということではなくて結構ですけれど。

【野元委員】 でも、早い、近いうちにですよね。もう一点なのですが、ウィンドウズ7からの更新については、来年度の予算要求はしているのですか。

【事務局】 30年度はまだウィンドウズ7でいけるのですが、31年度の途中でウィンドウズ7が終わってしまうので、31年度の予算要求には必須になります。これは図書館システムだけではなくて、市役所の中でウィンドウズ7を使っているところは相当あるのですが、全部入れ替えになります。アップデートして済むのなら良いのですけれど、図書館のシステムについては、今の機械でアップデートすると不具合が出るとシステム会社には確認しています。

【野元委員】 スケジュール的に言えば、来年度第一回の時に協議会としての意見がまとまれば、意見書みたいなものを出すと言うことですか。

【事務局】 意見書といったようなまとめたものではないですが、委員の皆さんからICタグは望ましいといった総意が出るのかどうかと言うことです。協議会の1回目でなければならないということではないです。30年度の予算は査定していますから、31年度に向けてとか、32年度とか、予算の時期がありますので、そういう時に協議会の意見も含めた形で必要なのかどうか

の判断を財政のほうでは見ていきますので、そのときの判断の一つとしてということです。極論を言えばバーコードでも図書館の運営は続けられます。ただ、進歩というか可能性が無い。他の館では使い勝手がどんどん改善されていくのに、今のバーコードのままですと発展性がない。

【伊藤委員】 図書館のパソコンシステムというのは、全体的な台数を総入れ替えするのですか。そうするとかなりの予算が必要な訳ですね。

【事務局】 本体の基幹システムというのは、クラウド化されているので、システム会社が持っています。それを操作するためのパソコンは入れ換えるということです。

【伊藤委員】 そうするとかなりの台数ですから、リース替えのときに一斉に替えるという方法がとれますよね。そのための予算はある程度つけておかないと、32年1月のサポート前に入れ換えるのがふさわしいということですよ。

【事務局】 ですから、31年度の当初予算の時にはいまの図書館のパソコンを入れ換える予算を組まないといけない。また、個人情報も図書館は扱っていますから、変なところからデータが流出すると大変な事になります。

【中田委員】 IC化の利点が非常に多いので、大いに促進していただきたいのですが素人では分からないのですが初期の費用といいますか、初期の予算というのは概算でどのくらいなのか。

【事務局】 安く見積もってICだけで900万円とか、作業を委託化すると1000万円以上高くなります。それに加えて機器のリースで何千万くらいになります。今のシステムの倍まではいかないですけど、かなりかかります。

【中田委員】 前進しますのでね、ぜひお願いしたいですね。

【伊藤委員】 あと、利用者カードはどうですか。今バーコードですが。

【事務局】 利用者カードはそのまま使えます。

【近藤委員】 今、忘れ物があるか本を調べるのに時間がかかると思うので

すが、それがセルフカウンターになると無くなるということですか。

【事務局】 そうです。自動貸出だと無くなります。

【近藤委員】 普段は返却された時にもチェックされているのですか。

【事務局】 そうです、貸出時と返却時に。

【近藤委員】 でも、チェックは無くても大丈夫だという事ですね。

【事務局】 そこは半分目をつぶるということかと。ブックポストもそうかと思うのですが、返した時にチェックをして、利用者に連絡をとるという事なのですけれど、自動貸出機になると貸したときに図書館として汚破損チェックをしていたものがなくなってしまう。これは図書館の運営の考え方になってしまうのですが、汚れたら買い換えればいいという考えや、汚れよりも早いほうが良いという考えの館もあると思います。それとは逆になるべく大切にしていきたい、同じ本はなるべく買わないというところの考えもあります。羽村の場合には予算的なところも限られていますし、汚破損の本を貸したくないなという考えがありますから、チェックをしているところなのですけれど。ただ、他の公立館が新しいシステムになっていくと、早さの比較をされてしまい、流れは新システムにということとは考えられます。

【事務局】 ただ、実際に落とし物が入っていることもあるので、1万円とか携帯のSIMカードがあつたりとか、思い出のある本だったという方もいたので、できればチェックをしたほうが良いとは思うのですが。ICの自動化になるとそこではできなくなるかなと。

【近藤委員】 まずは、スピードアップを図るためには、貸出のチェックをやめたら早いのではないかなと。早さだけを求めるのであれば。バーコードでやること自体は実際にはそれほど時間がかかっていないですね。

【事務局】 10冊になると計算したら30秒くらいは違ってきます。

【事務局】 そうなると、自動貸出機の際は他館ですと1回目の返却が仮返却の形になって、引き上げたあともう一回返却してという所もありますので、そうなると運用もまた考えていかないといけないのかなと。

【金子委員】 関連で、まだ中学校がバーコードすら付いていない状況なので、そういう全体的な優先的な順位で言ったら図書館に良いシステムを入れるというのは良い事だと思うのですが、学校との連携も含めて中学校の ICT 化のほうもやっていただきたいなと思います。

【事務局】 団体貸出とかの処理自体も早くなりますので、当然学校の ICT 化も進めていく上で学校へのサービスも早くできるということもあります。

【会長】 学校のシステムのほうは学校教育課とのこともあるとおもうので、図書館と学校図書館で連携を図りながら、またお互いの整備の進行状況も確認していただきながら、中学校の図書室の状態は本当に涙ぐましいものがありますので、中学校もシステム化を早くしていただきたいと切に願います。それから IC 化のほうも望ましい、今 IC 化はセキュリティ的にも有利だと思いますし青梅市の図書館で利用されていて、自動貸出機で自分で出来ますので、2 階のカウンターには職員が 1 名か 2 名くらいしかいません。そういったところを見ても、カウンターにいる人数っていうのは、もしかしたら羽村でもフロアに回れる余裕が出てくるのかなと思います。確かにサービスの向上になるかと思うので、こういったことを是非今後協議会の中でも話題にしていきたいと思います。よろしくお願いします。

では続いて次第の 5 です。その他という事なのですが、野元委員から多文化に対応した図書館についての資料をいただいていますので、説明をお願いします。

【野元委員】 以前から図書館の多文化サービスについて充実させていかなければいけないと、毎年度の図書館評価のときには話題にあがっていたのですが、やっと少し動き始めようという所で、先日の 2 月の頭ですけれど、首都大の大学院の留学生とこちらに来まして、改めてこれから少し多文化をすすめていこうとの話し合いをしました。その際に使ったチェックリストがみなさんの手元にお配りしたものです。日本図書館協会が出している「多文化サービス入門」というものですが、この中にあるものです。国際的には 80 年代の半ばから国際図書館連盟という組織があるのですが、外国人住民を含む全ての住民に対して平等に図書館サービスを提供するという、そういう多文化サービスの考え方が世界的にはなっているのですが、なかなか日本はこれからという所がありまして、ただ、外国人の人たちが増えている自治体を中心に多文化サービス充実させていこうという動きがあります。羽村

も自動車工場でペルー人の方々が多く働いているということで、すでに図書館の利用案内については英語とスペイン語で作られていますけれど、館内の多言語表示とか多言語資料の収集、あと羽村には日本語教室とか駅前にもペルーのレストランがあつて、そういう所に利用案内を配って図書館を利用してもらおうということもこれから必要になっていくのかなと思っているところですけど、まだこれから、ここに書いてあるような視点から少しずつ良いほうにしていこうかなという所です。2月の頭にこちらに来たときに、帰りに駅前のペルーレストランに寄ったら、定員がいて、図書館で外国人向けのサービスを充実していくということで早速スペイン語版を渡してきましたら、すごく喜んでいました。なかなか外国人の人たちが集まる場所だとか店だとか、こちらからアウトリーチ、アクセスしていかなければいけないという難しさがあるのですけれど、私の所の学生も多文化共生ということに関心がある人たちがいまして、研究室としてもいろいろと調査をさせていただきながら、これから取り組んでいけたらと思います。以上報告です。

【会長】 ありがとうございます。事務局のほうからは。

【事務局】 今おっしゃったとおり、留学生の方に来館いただきまして、いろいろ意見交換した所です。図書館としては、出来るところから始めていこうということで、始めに言われたのは外国語表記が全くないので、とにかく漢字にルビをふる所からということで、要所要所にルビをふりはじめたのですけれど、正面玄関の看板もかなり痛んでいますので、日本語しか書いていないので、そこらへんは直していきたいと思っています。オリンピック・パラリンピックの関係から公共施設には外国語表記を進めるという流れが出てくると思うのです。そういう事からも見直していきたい。外国籍市民の方も図書館を利用しやすいように進めていきたいと思っています。

【会長】 今までの話の中で、また改めて聞いてみたいというものがありませんでしたら、いかがでしょうか。

【近藤委員】 いつも絵本の新刊がくるのを楽しみにしているのですが、なかなか新刊を素早く借りる事ができなくて、カウンターの方に尋ねたら、新刊一覧表のコピーをいただきました。これどこかに掲示していただけると確認ができて助かるのですが。新聞とかで新しい絵本が出ても、それが入ったかどうか分からないので。可能であれば。

	<p>【事務局】 冊子でニューブックスというのを配布しているのですが、ただ、無くなってしまうこともあるので掲示していればどなたでも見ることができますね。冊子と掲示とでも良いかと思います。検討させていただきます。</p> <p>【会長】 例えば新着案内というホームページがありますね。そちらの方には児童書や絵本もアップされているのですか。</p> <p>【事務局】 あります。ちょっと選んでいただくようにはなりますけれど。館内のOPACでも新館案内が見られたと思います。</p> <p>【会長】 児童コーナーの所に新館と思われる絵本が置かれているはずなのですが、たしかにどの絵本が一番新しくて、それが並べられているとかっていうそういう動きがないですね、そうすると新しい本を目指して借りに来た方に対してはそういうリストがすぐ近くでわかるようにしてあると利用者には便利かと思いますね。</p> <p>【事務局】 それは、場所も含めて検討させていただきます。</p> <p>【近藤委員】 お願いします。</p> <p>【会長】 他にはいかがですか。</p> <p>【中田委員】 毎月の新刊とか新着の購入の図書の中に、一般の利用者のリクエストによる購入がありますよね。その割合はどのくらいなのですか。</p> <p>【事務局】 そんなに多くはないですね。</p> <p>【中田委員】 数が分からなければ結構です。別件ですが、去年読書手帳の表彰式がありましたが、あの結果というのは、広報とかにでていましたか。もし分かりましたら教えてもらいたいのですけれど。</p> <p>【事務局】 広報には載せていないです。数的なものでしたら、11 月には5人、その前の5月は2人です。皆さん小学生です。</p> <p>【中田委員】 年間 500 冊以上ですか。</p>
--	--

	<p>【事務局】 年間ではなく、累計です。1年間 500 冊は厳しいですね。</p> <p>【中田委員】 分かりました。高校生はいないのですね。</p> <p>【事務局】 実際、ヘビーユーザーの大人の方で 1000 冊読んでいる方もいるのですが、表彰ではなく好きで読んでいるからという人はいますね。ただ、読書手帳は自分の記録をつけるには有効だからと言うことで使っていったりする方もいます。</p> <p>【中田委員】 分かりました。</p> <p>【会長】 ほかにありますか。無ければ事務局からは何かありますか。</p> <p>【事務局】 特にありません。</p> <p>【会長】 次回の日程については、事務局のほうから連絡があるという事でよろしいでしょうか。では長時間にわたりありがとうございました。またよろしく願いいたします。</p>
--	---